イノシシ肉を味わおう
ジビエ肉活用展

11月5日、古町商店街のもち吉ビルコミュニティスペースで、ジビエ肉活用展が行われました。近年、市では鳥獣の増加による農作物被害や、生態系バランスの崩れ等の影響が出ています。直方青年会議所では、地域の問題点やその解決策を地域の人とともに考える「地域共育事業」の一環として、大和青藍高校の生徒とともにイノシシ対策を考案。駆除するだけではなく、イノシシ肉を新たな地域の資源として活用しようという狙いです。

この日は「しし鍋」と「メンチカツ」を無料で各200食ふるまいました。メンチカツは調理科の生徒が考案したレシピです。市内から訪れた女性は「臭みがなく上手く調理しているなと感心しました。子どもがもっと食べたいと喜んでいます」と、再び列に並んでいました。直方青年会議所の青見健志さんは「イノシシ肉は、適正に処理すれば生臭さも無くとてもおいしい。イノシシ肉を味わいながら、地域の未来にも想いを馳せてほしい」と展望を語りました。

命の重みを感じて、いただきます

五日市を彩る
筑豊高校ファッションショー

11月5日に、筑豊高校生活デザイン科の生徒によるファッションショーが商店街のふるまち通りで行われました。半年かけて制作した自作の衣装に身を包み、レッドカーペットの上をウォーキング。歩き方やメークはプロの講師から指導を受けました。音楽にあわせてポーズを決めると、観客からは大きな拍手が送られました。総責任者を務めた山縣久実さん（18）は「悩んだことやつらいこともあったが、先生や友人、家族の支えがあって乗り越えられた。このような場所でファッションショーができて幸せです」と挨拶しました。

11回目となる今年は、五日市に合わせてショーを開催。糸田町から買い物に来ていて偶然ショーを見たという女性は「皆とてもかわいくて、思わず声援を送った。帰宅したら『こんな素敵なショーがあったのよ』と家族にも教えたい」と、携帯電話に収めた画像を見返していました。

自作とは思えないクオリティ

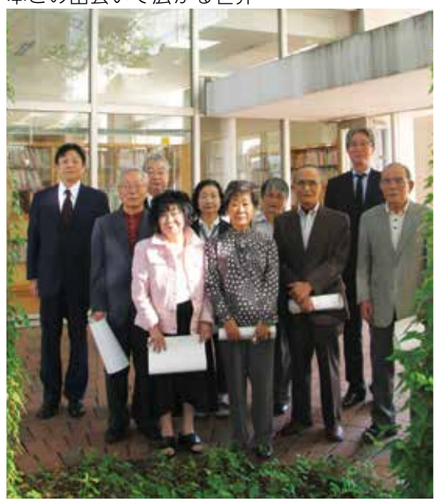
本に魅せられて
図書館ボランティア顕彰式

10月26日、市立図書館で図書館ボランティアの顕彰式が行われました。ボランティア活動時間や実施回数が節目に達した15人・2団体に、市が感謝状を贈呈。柔らかな日差しが差し込む屋外読書スペースを会場に、8人が式に出席しました。

市立図書館のボランティアは、書物を書架に正しく並べる窓口ボランティア、古文書の研究や整理を担う郷土ボランティア、7ヵ月児健診で赤ちゃんと母親に絵本を渡すブックスタートボランティア、読み聞かせ等を行う行事ボランティアの4種類があり、約180人が活動に携わっています。

ブックスタートボランティアの山田千代子さんは、活動歴6年ほどで活動回数30回に到達。絵本を渡すとき、時間があれば読み聞かせも行っているそうです。「お母さん以外の声で本を読んであげることで、子どもが違った雰囲気を感じられていると思う。小さい子に会って楽しめることが何より嬉しく、やりがいを感じます」と話しました。

本との出会いで広がる世界



北校区で徘徊模擬訓練を実施

11月11日に、北校区で徘徊模擬訓練（同実行委員会主催）が行われました。直方駅前・商店街エリアを中心に、3人の認知症高齢者役（高齢者役）が校区内を移動。「声かけ」と「捜索」の訓練を行いました。「声かけ訓練」では参加者が声かけポイントに立ち、「こんにちは」「何かお手伝いしましょうか」などと、高齢者役に優しく声かけをしました。加えて、今年度は多くの店舗が立ち並ぶ市街地での開催であることから、「もし認知症の人が買い物に来たら」という想定で訓練を行いました。高齢者役が実際に入店し、店主から買い物のサポート等を受けました。

「捜索訓練」では、高齢者役の居場所が分からない状況で、参加者が徘徊捜索メールの情報を頼りに捜索を実施。高齢者役を発見した参加者が対象者を保護し、直方警察署に訓練通報しました。井上進一実行委員長は「困っている高齢者に優しく声かけをすることが重要で、認知症かどうかは関係ない、困っている人がいたら声かけしよう」と、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを掲げました。

助け合いは明るい地域づくりの第一歩

糖尿病予防の大切さを呼びかける
世界糖尿病デー

11月11日、世界糖尿病デー（11月14日）に合わせて、様々なイベントが開催されました。世界的に増加する糖尿病への関心を高め、予防や治療の大切さを呼びかけるもので、直方病院では、血糖測定や医療・栄養相談、糖尿病専門家によるミニ講演が行われました。直方病院のイベントに訪れた矢野擇子さん（80）は「血糖測定は大丈夫でしたが、栄養相談で甘いものの食べすぎに注意するように」とアドバイスを受けたそうです。

夜には、直方駅前の魁皇像をブルーライトアップ。ライトが点灯した際には「おお」という歓声が上がりました。魁皇像は2時間ほどライトアップされ、駅に集まった人々が思い思いに記念写真を撮っていました。実行委員の横田さんは「このイベントをきっかけに、糖尿病を知ってもらい、予防や治療に役立ててもらえれば嬉しい」と話しました。

糖分の摂り過ぎには注意

奉納物を通して見る遠賀川の水運

直方市石炭記念館で、企画展「遠賀川流域の交通・水運の変遷」が、12月10日まで開かれています。江戸時代、水運輸送により活況を呈した遠賀川。遠賀川流域の神社の境内には、業者が奉納した鳥居や灯籠等が残っています。

展示写真は、北九州市八幡西区在住の牧之角四男さん（70）が撮影したもの。20代頃から筑豊の炭鉱史に興味を持っていましたが、50代になり歴史への興味が再燃。放送大学の学生として遠賀川の水運の歴史を学び始めました。2013年から撮影を始め、2年間で調査した遠賀川流域の神社は約110ヵ所。26ヵ所の神社で38件の奉納物を確認しました。猿田彦神社の石柱や日吉神社の石灯籠といった市内の奉納物も撮影されています。

牧之角さんが調査の一環で石炭記念館を訪れたのがきっかけで、この企画展が実現。八尋孝司館長は「牧之角さんの研究成果を一般の人に見てもらい、歴史ある筑豊の素晴らしさを再認識してほしい」と話しました。

遠賀川の歴史を再発見